

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 47週 > A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘 - 年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 感染性胃腸炎 > 第47週の全国定点からの報告総数は21,346、平均の定点当たり報告数は7.07
< 腸管出血性大腸菌感染症 > 発生状況グラフ



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 感染性胃腸炎 / インフルエンザ / Vero毒素産生性大腸菌



速報
P.6-7

髄膜炎患者からのエコーウイルス13型の分離 - 福島県



海外感染症情報
P.8

ナイジェリアのコレラ / 世界のAIDS - 東欧でのAIDSは他のどの地域より最も速く増加している / 他



感染症の話
P.9-12

炭疽
Bacillus anthracis (炭疽菌) の感染によっておこる人獣共通感染症で、ヒトの病型には皮膚炭疽、腸炭疽、肺炭疽がある



読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(47週)
P.14-20



47週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第47週コメント 11月29日集計分

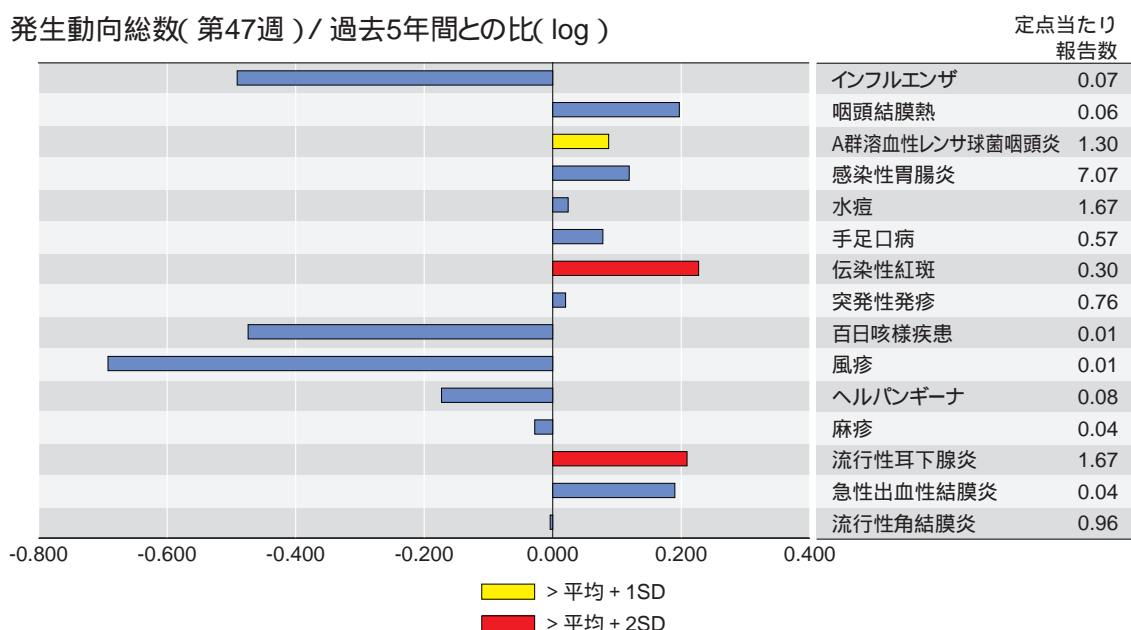
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: インドネシア)
細菌性赤痢6例(推定感染地: 国内3例、ベトナム、フィリピン、インド各1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症13例(有症者8例。腸管出血性大腸菌感染症の発生数の推移については、4ページ「注目すべき感染症」を参照。)
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例(孤発性3例、家族性1例)、ツツガムシ病13例(うち、鹿児島県3例)、日本紅斑熱2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子型不明、ドレーン、便より菌検出、MIC値が基準値以上)、レジオネラ症1例(神奈川県、死亡例)
急性ウイルス性肝炎2例 B型2例_感染経路: 性的接触2例
後天性免疫不全症候群4例(AIDS 1例、無症候性キャリア3例)
感染経路: 性的接触3例(同性間1例、異性間2例)
不明1例
梅毒2例(晩期顕症1例、無症候1例)
マラリア2例(三日熱2例_推定感染地: アフリカ、ベトナム)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、都道府県別では、山形県で報告数6.8と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、熊本県(18.2)、福岡県(13.7)、宮崎県(13.6)、山口県(12.8)などである(感染性胃腸炎の詳細な情報については、4ページ「注目すべき感染症」参照)。手足口病は新潟県で定点当たり2.0の報告がある。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較すると定点当たり報告数がかなり多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(9.1)、長野県(5.7)、富山県(5.2)、沖縄県(4.1)などである。

発生動向総数(第47週) / 過去5年間との比(log)

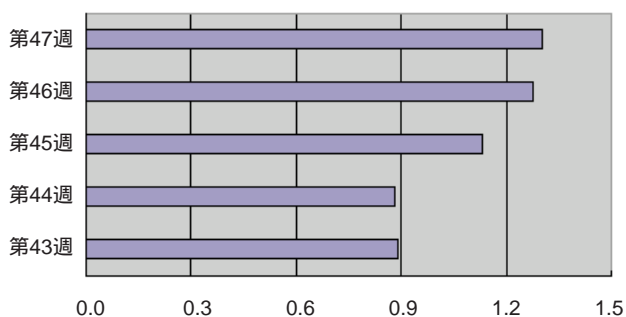


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

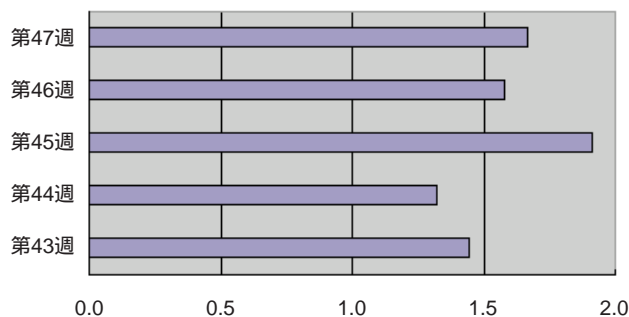
最近の注目疾患－5週間の動き

感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は8週連続で増加しており、今後年末のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も定点当たり報告数が前週よりわずかに増加し、ここ5週では全体として増加傾向にある。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より増加した。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、4週ぶりに前週を下回ったが、昨年、一昨年に比べると報告数の多い状態が続いている。

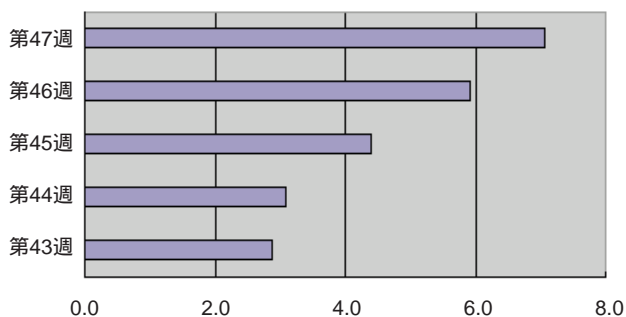
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



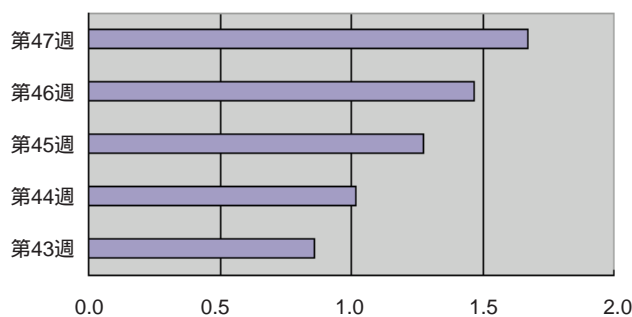
流行性耳下腺炎



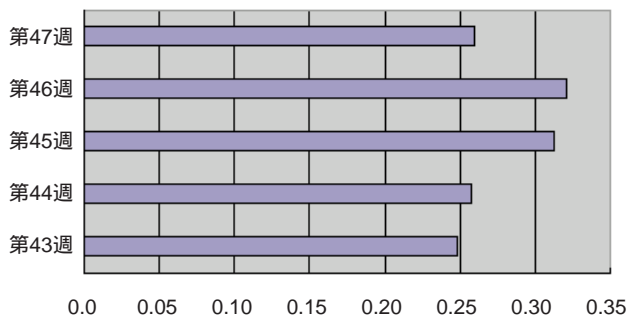
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



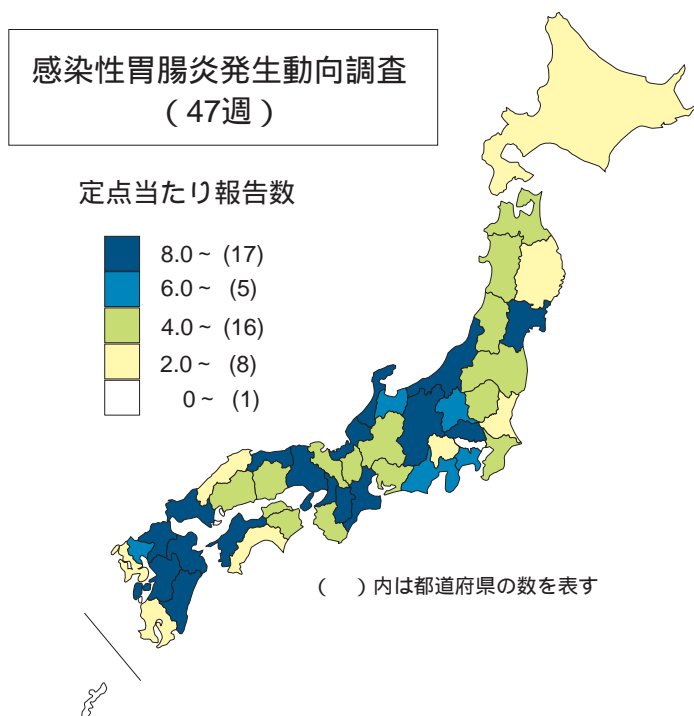
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

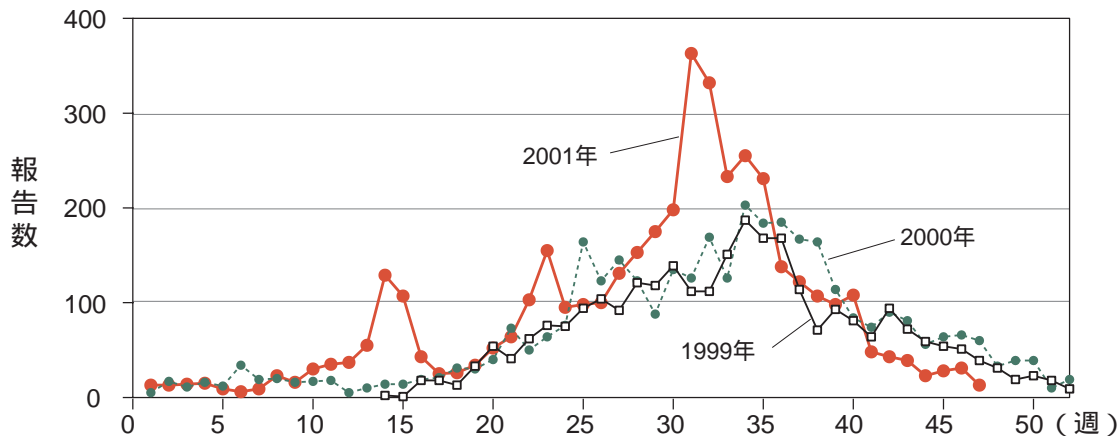
感染性胃腸炎流行状況

今シーズンの感染性胃腸炎は第39週より患者報告数が徐々に増加し始め、第45週、46週、47週と急増している(15ページ感染性胃腸炎グラフ参照)。第47週の全国定点からの報告総数は21,346、平均の定点当たり報告数は7.07となっている。都道府県別で定点当たり報告数が多くなっているのは熊本県(18.2)、福岡県(13.7)、宮崎県(13.6)、山口県(12.8)、三重県(11.2)、愛媛県(11.0)、兵庫県(10.6)、大分県(10.5)、奈良県(10.0)などである。病原体検出情報事務局にはすでにSRSV、およびロタウイルスの検出情報が寄せられている(ウイルスの検出情報については5ページ参照)。



腸管出血性大腸菌感染症流行状況

腸管出血性大腸菌感染症 (無症状保菌者含む) 発生状況





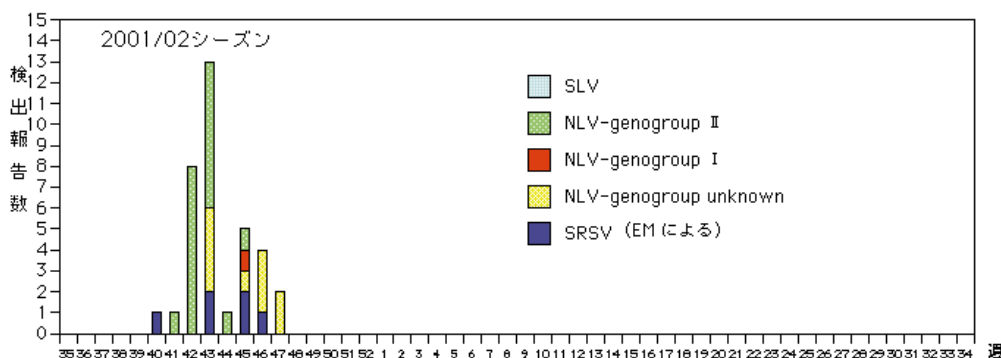
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年11月30日現在報告分)

感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSV検出として、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが17件(全て大阪市 :うち5件が保育園での集団発生)、NLV genogroup Iが1件(石川県)、NLV genogroup unknownが10件(新潟県6、秋田県4)、電顕による検出6件(北九州市4、愛媛県1、栃木県1)の報告がなされた。また、A群ロタウイルスの検出が第41、44週に東京都から各1件報告されている。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン (病原微生物検出情報：2001年11月30日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。

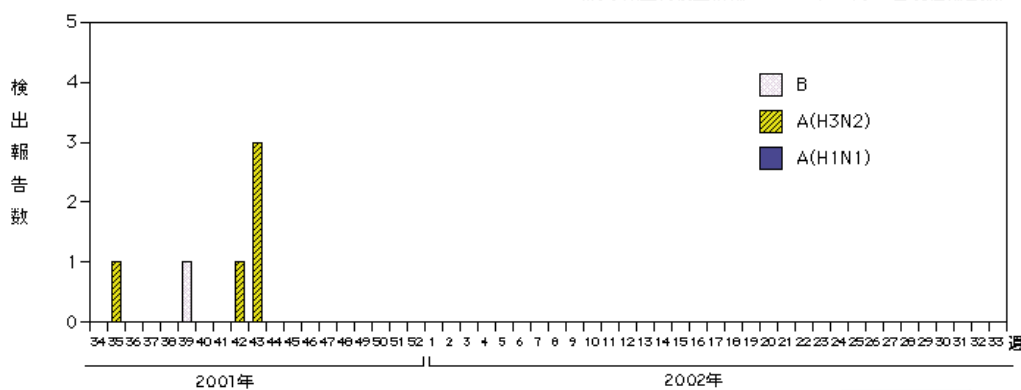


インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離ウイルスは、A/香港型ウイルス(H3)が第35週(8月29日検体採取)に沖縄県から1件報告され、第42、43週に同じく沖縄県から4件報告された。また、B型は第39週(9月26日検体採取)に名古屋市から1件報告されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報：2001年11月30日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が1,291件、O26が264件である。報告は第30~32週をピークに減少しており、最近の検出としてはO157が第44週に4件(札幌市3、兵庫県1)、O26が第43~44週にかけて福岡市から4件報告されている。



髄膜炎患者からのエコーウイルス13型の分離 - 福島県

2001年9月23～28日にかけて福島県内で発生した髄膜炎患者の髄液などから、エコーウイルス13型(E13)を分離した。病原微生物検出情報によれば、同ウイルスの分離報告例は1980年に1例あるが、非常に稀で、流行例は国内で初めてである。

患者は、本県S市および隣接町村に居住する1～9歳の幼児および児童7名で、発熱、頭痛、嘔吐を主訴に同地区の定点医療機関を受診し、髄膜炎と診断された。また、これより10日程前の9月10日に同医療機関を受診し、熱性痙攣・咽頭炎と診断され、外来で加療を受けていた1歳4カ月の乳幼児の直腸ぬぐい液からも、同ウイルスを検出した。

本県においては、通常の感染症発生動向調査事業とは別に、FAXを使った当研究所独自のサーベイランス網を敷設している。今回E13が分離された髄膜炎の症例は、上記のように9月23～28日にかけての発症例であるが、同サーベイランスによって、8月中旬～9月中旬にかけての当該地域における散発的な髄膜炎の発生を察知しており、9月21日付のサーベイランス週報で医療機関や保健所などに注意を促していた。

当該地域から9月期に検体が採取された症例は24症例(45検体)で、髄膜炎11症例、熱性痙攣3症例、上・下気道炎8症例、胃腸炎2症例であった。このうち、髄膜炎7症例、熱性痙攣1症例の咽頭ぬぐい液・直腸ぬぐい液・髄液などからE13が分離された。

上記の8症例は頭痛、嘔気・嘔吐、腹痛(2症例)を主訴に受診し、上気道の炎症や発熱(37.6～39.2)がみられた。うち7例については、ケルニツヒ徴候、項部硬直などの髄膜刺激症状が認められたため入院加療となった。有熱期間(37.5以上)は2～4日間で、頭痛は4～6日間ほど続いた。その後、全症例とも治癒している。髄膜炎としては他のウイルスによるものに比し、軽症例が多いようであった。

ウイルスの分離は、RD-18S細胞、HEp-2細胞、Vero細胞、HMVⅡ細胞を用いて行ったが、RD-18S細胞のみに強い細胞変性効果(CPE)が観察された。同細胞におけるウイルスの増殖は非常に良好で、3代培養後のウイルス液は $10^6 \sim 10^8$ TCID₅₀/0.025mlと高い力価を示した。ウイルスの同定については、当初EP95やコクサッキーA群に対する中和抗血清を用いた中和試験で同定を試みたが、成功しなかった。このため、CDCが開発した汎エンテロプライマーセットを用いてRT-PCRを行ったところ、18X-011と040, 012-011の両プライマーセット(VP1領域)で増幅産物が得られた。このPCR増幅産物の遺伝子解析を国立感染症研究所に依頼したところ、E13の標準株であるDel Carmen株と約80%のホモロジーを有し、近年に米国や欧州で分離されたウイルス株とは98～99%のホモロジーを有するとの回答を得たことから、同ウイルスに対する中和抗血清を用いて同定試験を行い、E13と同定した。

E13の海外における流行状況については、米国内での過去における同ウイルスの分離は非常に稀で、1970～2000年までの30年間でCDCに報告された分離例は65例であった。しかし、本年(2001年)は8月までにテネシー州、ミシシッピ州、ルイジアナ州、フロリダ州など13州にわたって76例の分離報告がなされており、このうち50例は無菌性髄膜炎と診断された症例であった(CDC, MMWR, Vol.50, No.36参照)。また、Eurosurveillanceによれば、イングランドおよびウェールズにおいて、2000年の30週までに67例(うち、髄膜炎症例38例)の分離が報告されており、ドイツでも2000年の5～9月にかけて、これまで非常に稀であった同ウイルスによる髄膜炎症例の増加が報告されている。今回、E13が分離された患者やその家族のこれらの地域への渡航歴については

調査中であり、感染経路などは現在のところ不明である。

なお、10月期に当該地域で検体が採取された症例、髄膜炎(疑い)15症例を含む33症例(75検体)のウイルスの分離同定を進めているが、現在までに髄膜炎12症例、上気道炎2症例、胃腸炎3症例、発疹1症例の合計18症例からRD-18S細胞にCPEを示すウイルスが分離されており、同定作業を急いでいる。

最後に、御多忙中にもかかわらず貴重な検体や患者情報を提供いただいた公立相馬病院小児科の片寄雅彦先生、ならびに、遺伝子解析などを快く引き受けていただき、その後の御指導をいただいた国立感染症研究所ウイルス第二部の吉田弘先生に深謝する。

福島県衛生研究所

菅野正彦 慶野昌明 平澤恭子 亘理智子 三川正秀 齋藤公男 加藤一夫

(IASR2001年12月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ナイジェリアのコレラ

WHO/CSR 2001年11月27日

2001年11月14日までにナイジェリア政府は、52例の死亡を含む724例のコレラ患者を報告した。流行は次の地域で発生している。

- ・ Akwa Ibom州のOpkoso 保健区 ; 患者25例、死亡8例
- ・ Kwara州のBode Saadu ; 患者124例、死亡16例
- ・ Kano州のKano Metropolis ; 患者575例、死亡28例

WHOはコレラ用診断キットを提供し、流行に対する調査および制圧に対して技術的支援を行っている。

世界のAIDS - 東欧でのAIDSは他のどの地域より最も速く増加している

Eurosurveillance Weekly 2001年11月29日

UNAIDS(Joint United Nations Programme on HIV/AIDS)とWHOが11月28日に発行した報告書によると、東欧でのHIV感染者数は、世界のどの地域よりも速く増加している。12月1日の世界エイズデーに合わせて出された最新の集計では、ロシアでの2001年1月から11月初めまでの新たなHIV感染者数は75,000人以上あり、これはちょうど3年間で15倍の増加である。東欧全体では、この1年間の新たなHIV感染者は250,000人と推定され、HIV感染者数は1,000,000人となった。他の性感染症が高率に発生しており、青年層で薬物注射の乱用が高率にみられることから、この流行はかなり広がりそうである。

アフリカ全土での2001年の新たな患者数は3,400,000人、死亡者数は2,300,000人であり、流行は急速な広がりを続けている。スワジランド、ボツワナ、南アフリカの一部の地域では妊婦の30%以上がHIV陽性である。西アフリカでは、以前は感染率の低かった多くの国(アフリカで最も人口の多い国であるナイジェリアを含む)が、現在では流行閾値である5%を越えている。

収入の高い国では、HIVなどの性感染症の増加の引き金となる無防備な性交渉の増加という困った傾向がある。これらの国では、HIVはより貧しい集団に移行しており、5年前と比べて少数民族の青年層はかなり高い危機に直面している。WHOとUNAIDSによれば、HIVが低率である、または人口が多い国では、適切な対策を講じる必要があるとされている。

アジアでは、一部の小国で効果的な制圧対策がなされたにもかかわらず、感染者数は増加を続け、2001年の新たな推定感染者数は初めて1,000,000人に到達した。多くの国で流行が拡大し、社会問題化する深刻な脅威となっている。まだ実質的にはHIVの被害を受けていない中東のいくつかの国で、ハイリスク群に急激に流行が広がり始めている。

西ナイルウイルスの活動性(米国) - 更新

MMWR 2001年11月30日

11月14 ~ 20日の1週間に西ナイルウイルスによる脳炎・髄膜炎患者3名が、マサチューセッツ州(2名)、ニュージャージー州(1名)で報告された。

今年これまでに48名の西ナイルウイルスによる脳炎・髄膜炎患者が、ニューヨーク州(12名)、フロリダ州(10名)、ニュージャージー州(7名)、コネチカット州(6名)、メリーランド州(6名)、ペンシルバニア州(3名)、マサチューセッツ州(2名)、ジョージア州(1名)、ルイジアナ州(1名)で報告されている。48名のうち27名(56%)が男性で、年齢の中央値は70歳(36 ~ 90歳)であった。発症日は7月13日 ~ 10月15日であり、5名が死亡している。



感染症の話

炭 疽

炭疽(anthrax)は*Bacillus anthracis*(炭疽菌)の感染によっておこる人獣共通感染症で、ヒトの病型には皮膚炭疽、腸炭疽、肺炭疽があるが、自然感染の95%以上が皮膚炭疽である。ウシなどの草食獣に比べてヒトは比較的抵抗性が強いといわれる。

疫 学

炭疽は地球上に広く存在し、世界の多くの地域で発生がみられる。ヒトおよび動物の炭疽の発生は発展途上国や獣医衛生の立ち後れている国に多く、それぞれ年間2万人、および100万頭に達すると推定されている。先進国でみられる炭疽は、動物組織の処理過程での孤発的発生が多い。ヒトおよび動物の炭疽の自然感染は、偶発的に摂取(あるいは接触)した芽胞が原因であり、炭疽菌が個体から個体へ直接伝播されることはほとんどない。

炭疽菌は土壌などの環境中で芽胞として長期間生残し、動物に感染を繰り返す。芽胞が生体内に侵入すると発芽し、栄養型として体内で急速に増殖し、炭疽を発病する。感染した動物の血液、体液、死体などで地表が汚染されると、その土壌は再び感染源となりうる。炭疽菌はこのような感染サイクルを繰り返して、炭疽汚染地帯を作る。スペイン中部からギリシャ、トルコを経てイラン、パキスタンに及ぶ汚染地域は、炭疽ベルトとも呼ばれる。また、ロシア、中央アフリカ、南アメリカなどでも発生が多い。

近年わが国では家畜衛生などの対策が功を奏して、動物の炭疽発生は極めて少なくなっている。ヒトの炭疽については伝染病統計によると、第二次世界大戦後の1947年には13例報告されていたが、その後次第に減少し、1974年以降にはほとんど見られなくなり、1982年と1984年にそれぞれ1例ずつ、1992年と1994年にそれぞれ2例ずつの報告があるのみである。

最近の米国での生物テロによる発生は、郵便物に粉と一緒に炭疽菌を同封したことにより生じた。最初の症例は2001年9月27日に発症しているが、結局12月7日の時点で肺炭疽11例(すべて確定例)、皮膚炭疽12例(確定7例、疑い5例)、計23例の症例を出している。

病原体

炭疽菌は好気性グラム陽性大桿菌($1 \sim 2 \mu\text{m} \times 5 \sim 10 \mu\text{m}$)で、他の*Bacillus* 属の菌と異なり、鞭毛を欠き運動性がない。ヒツジ赤血球に対するベータ溶血、ゼラチン分解、およびサリシン分解を行わない。生体内では菌体表層に莢膜を伴う単独または短い連鎖状であるが、人工培地では莢膜の形成は認められないか弱く、竹節状の長い連鎖となる。寒天培地上では、辺縁が縮毛状の集落を形成する。

炭疽菌の病原因子は浮腫毒と致死毒である。これらの毒素は防御抗原と呼ばれるタンパク質によって宿主細胞内に運ばれる。炭疽による動物の死は、致死毒によるショックが原因と考えられている。

莢膜形成、および毒素の産生は、菌の保有する莢膜プラスミド、および毒素プラスミドにより支配を受けている。野外から分離される強毒株は、通常この2種類のプラスミドを保有する。莢膜にはポリDグルタミン酸が含まれるため、食作用を受けにくい。

炭疽菌は酸素と接触することによって芽胞を形成して、熱、乾燥、消毒薬などに対する強い抵抗性を獲得する。このため、土壌中などで長期間にわたって生存することができる。

臨床症状

ヒトの病型は伝播様式によって皮膚炭疽(経皮感染)、腸炭疽(経口感染)、および肺炭疽(吸入感染)の三つに分けられる。

皮膚炭疽(炭疽よう): 自然感染による炭疽の95%以上が皮膚炭疽である。炭疽菌芽胞は正常の皮膚からはほとんど侵入せず、創傷部から体内に取り込まれる。炭疽菌や芽胞を含んだ動物、またはその成分と接触した後1~10日して小さな掻痒性、無痛性の丘疹が出現し、周囲に発疹と浮腫が出現する。丘疹は崩壊し、潰瘍を形成する場合がある(図1)。局所リンパ節の腫脹が著しい。未治療の場合の致死率は10~20%とされる。

腸炭疽(出血性小腸炎): 感染獣の肉を摂食して発症する。症状は悪心、嘔吐、食欲低下、発熱で始まる。2~3日後に、激しい腹痛と血性下痢がみられる。この激しい症状のあと、毒血症、ショック、死亡に至ることがある。病変は盲腸にみられ、時に他の大腸部や十二指腸にもみられる。致死率は25~50%とされる。

肺炭疽 : 発生はきわめてまれである。1979年、旧ソ連の軍施設から飛散した芽胞によって64名が肺炭疽のために死亡したとされるが、この事故以前には30例のみが知られていたにすぎない。初期にはインフルエンザ様症状(軽度の発熱、倦怠感、筋肉痛など) または気管支肺炎様症状を示し、発熱、呼吸困難、咳、頭痛、嘔吐、悪寒、脱力、腹部と胸部の疼痛が見られる。胸部レ線上、胸水をともなった縦隔の拡張がみられることが多い(図2)。未治療での致死率は90%以上に達するとされる。

動物における炭疽は草食獣、特にウシやウマなどに多い。超急性/卒中性感染、急性感染、および亜急性/慢性感染の病型が知られている。症状は眼結膜の充血、可視粘膜の浮腫、呼吸困難などで、感受性の強い動物は急性敗血症や尿毒症による腎障害を呈して死亡する。

病原診断

炭疽の確定診断は炭疽菌の分離同定によって行う。検体の直接染色によりグラム陽性芽胞形成性の桿菌、寒天培地上での特徴的な集落の形成、血液寒天培地で非溶血性で運動性がない場合には炭疽菌を疑う。さらに、ガンマファージテスト、パールテスト、アスコリーテストを行い陽性であれば炭疽菌と確定できる。



図1. 典型的な皮膚炭疽の所見。すでに潰瘍化し、中央部は黒色の底を有するescharとなり、周囲は浮腫状である。

(The Gorgas Course in Clinical Tropical Medicine, Anthrax Casesより引用。
<http://info.dom.uab.edu/gorgas/anthrax.html>)

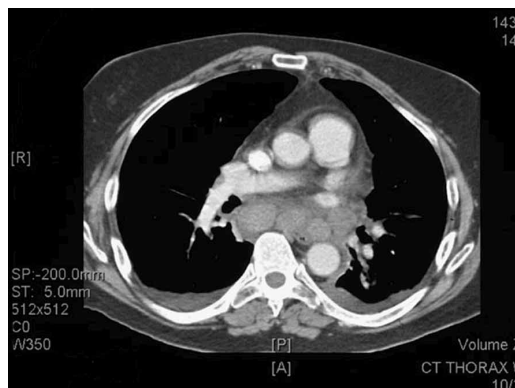


図2. 米国の肺炭疽症例での胸部CT写真。縦隔リンパ節の腫脹と、両側性の胸水貯留。

(Emerging Infectious Diseases, Vol. 7, No. 6, Nov-Dec 2001の記事より引用。
<http://www.cdc.gov/ncidod/eid/vol7no6/jernigan.htm>)

この他に用いられる診断方法として、莢膜染色(レビーゲル染色)、抗原検出法、PCR法などがある。このうちPCR法には、炭疽菌の防御抗原や莢膜抗原などの遺伝子を標的として検出するためのプライマーが報告されている。PCR法の利点は他の菌が混入していても検出できる点と、試料の新鮮さを問わない点であり、病原診断にきわめて有用である。

治療・予防

炭疽菌による暴露が明らかな場合、発症前であれば経口感染や吸入感染であっても抗菌薬による暴露後治療が効果的とされる。発症者には200万単位のペニシリンG、またはシプロフロキサシンの静脈内投与が効果的とされる。

旧ソ連の事故では、入院患者に対してペニシリンまたは他の抗菌薬、免疫グロブリン、コルチコステロイドの投与、および人工呼吸などの治療が行われた。

ヒト用の無細胞ワクチンが実用化されているが、その投与方法および副作用の問題もあり、わが国では承認されていない。また、今回の事件に対しての米国の対応でも、ワクチン接種は一般にはすすめられていない。ウシおよびウマの予防には、プラスミドにコードされる莢膜が脱落した無莢膜ワクチン株が生菌ワクチンとして用いられている。

家畜からヒトへの伝播の防止は、病獣の同定診断と淘汰が第一である。非流行国における炭疽の発生は、流行地域から輸入される羊毛や骨などの動物産品からおこる可能性がある。

汚染の除去、消毒および滅菌

炭疽菌芽胞により汚染した身体、器物および環境からの芽胞の飛散を最小限に抑える一方、以下に掲げるいずれかの消毒薬、または滅菌法を用いることが奨められる。どの方法を用いるかは、対象物の性質(生物材料、器物、建造物の一部、土壌、水など)や、処理後の用途(廃棄、再使用など)によって異なる(表1)。汚染物の取り扱いにはガウン等を着用する。汚染した可能性のある衣服(靴、ソックス、ストッキング、および袖や襟が汚染した場合には上着)はできるだけ早く脱衣して缶かバッグに入れ、消毒やオートクレープ処理を行う。使い捨てガウンは焼却も可能である。

最終消毒終了後、室内あるいは動物舎のような閉鎖空間は十分に換気を行い、消毒剤が人体に悪影響を及ぼさないように注意してから再使用する。

なお、芽胞を効果的に消毒するのはきわめて困難であり、状況によってはこれを完全に実施するのは不可能な場合がある。また、消毒作業の効果を推定することはできないので、確認する場合はスワブを採取して培養によって確かめる。

- ・10%フォルムアルデヒド(30%ホルマリン)...1 ~ 1.5 ℓ/m^2 、2時間、10 以上
- ・4%グルタルアルデヒド(pH8.0 ~ 8.5)...1 ~ 1.5 ℓ/m^2 、2時間、10 以上
- ・3%過酸化水素水...0.5 ℓ/m^2 、2時間
- ・1%過酢酸...0.5 ℓ/m^2 、2時間
- ・焼却
- ・オートクレープ処理...121 20 ~ 30分
- ・エチレンオキシドガス滅菌

表1. 対象物ごとの炭疽菌汚染の除去方法

検査室における消毒	病院用の殺芽胞剤、または0.5%次亜塩素酸溶液（家庭用漂白剤の10倍希釈液、有効塩素濃度100,000 ppm）を用いて、消毒を行う。ベンチコートなどの実験台カバーを用いる。
人体の汚染	皮膚の汚染部位は次亜塩素酸溶液（有効塩素濃度5,000 ppm）に1分間浸したあと、石鹸を使って十分に水洗いする。皮膚に損傷がある場合には次亜塩素酸溶液は用いず、血液を絞り出してから傷口を十分量の水を用いて洗浄する。目に飛散した場合には、目をこすらず、直ちに大量の水で十分に洗い出す。口腔内の汚染では直ちに口の中のものをつき出し、次亜塩素酸溶液（有効塩素濃度2,000 ppm）で口腔内を十分にすすぎ、次いで何回か水で口腔内をすすぐ。人体の汚染が考えられた場合には直ちに医師による診察を受け、最低1週間は観察下に置く。
建物などの汚染	床などの上に滴下したり飛散したものは直接、または汚染区域を吸湿性物質で覆ってから、次亜塩素酸溶液（有効塩素濃度10,000 ppm）、10%フォルマリン、4%グルタルアルデヒド、または1%過酢酸を十分にふりかける。2時間以上経過してからタオルペーパーでふき取り、ペーパータオルは袋に入れて焼却する。
衣服、道具、器物などの汚染	可能な場合には汚染した器物は焼却、またはオートクレーブ滅菌を行う。使い捨てにしない器物の場合には、付着している大きなゴミは焼却用袋、またはオートクレーブ用袋にそそぎ落としたあと、器物それ自身は4%フォルムアルデヒド溶液、または2%グルタルアルデヒド溶液に一晚（8時間以上）浸漬する。 器具、機器類でオートクレーブ滅菌、煮沸滅菌、またはフォルマリンなどの溶液に浸漬できないものには、薫蒸滅菌を考慮する。適切な構造と気密性を保ったチャンパーに汚染物とフォルマリン（水で2～3倍に希釈）を入れ（約15 ml/m ² ）煮沸蒸発させたあと、常温（18℃）で12時間以上放置する。薫蒸処理中のチャンパー内の相対湿度は90%以上とする。薫蒸処置が終了したときの換気装置は、人や動物が移動する場所から離れた位置に備える。 フォルムアルデヒドに代えてエチレンオキシドガスによる滅菌も可能である。エチレンオキシドガスの使用は、整った設備とその運転経験のある施設に限って行うべきである。
水の汚染	汚染水の滅菌・消毒にはオートクレーブ滅菌、フォルムアルデヒドによる滅菌、塩素剤による滅菌、濾過滅菌などが考えられるが、水の溜まり場所、芽胞の推定濃度、処理する水の量、その水が流れて行く先、および処理後の水の使用目的などの状況を判断して、最もよい解決方法を適用する。

感染症法における取り扱い

炭疽は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

・病原体の検出

例：病巣組織や血液からの菌の分離・同定(鏡検・培養)と、分離した菌のガンマファージテスト、パールテスト、アスコリーテストによる確認など

(国立感染症研究所獣医科学部 神山恒夫)



読者のコーナー

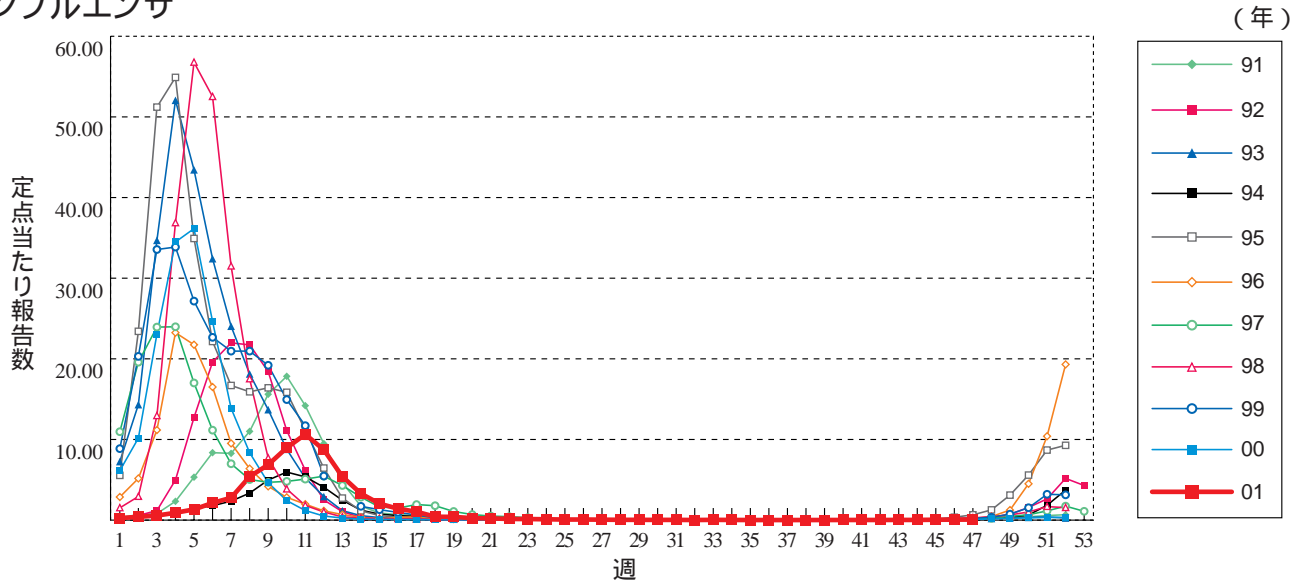
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

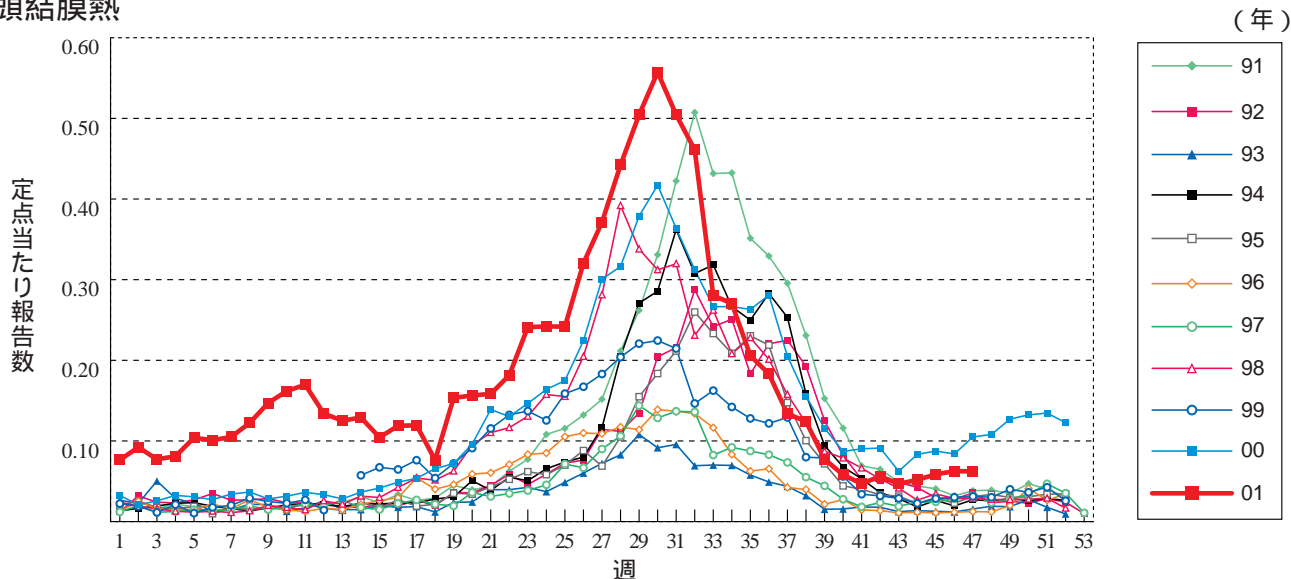


グラフ総覧(47週)

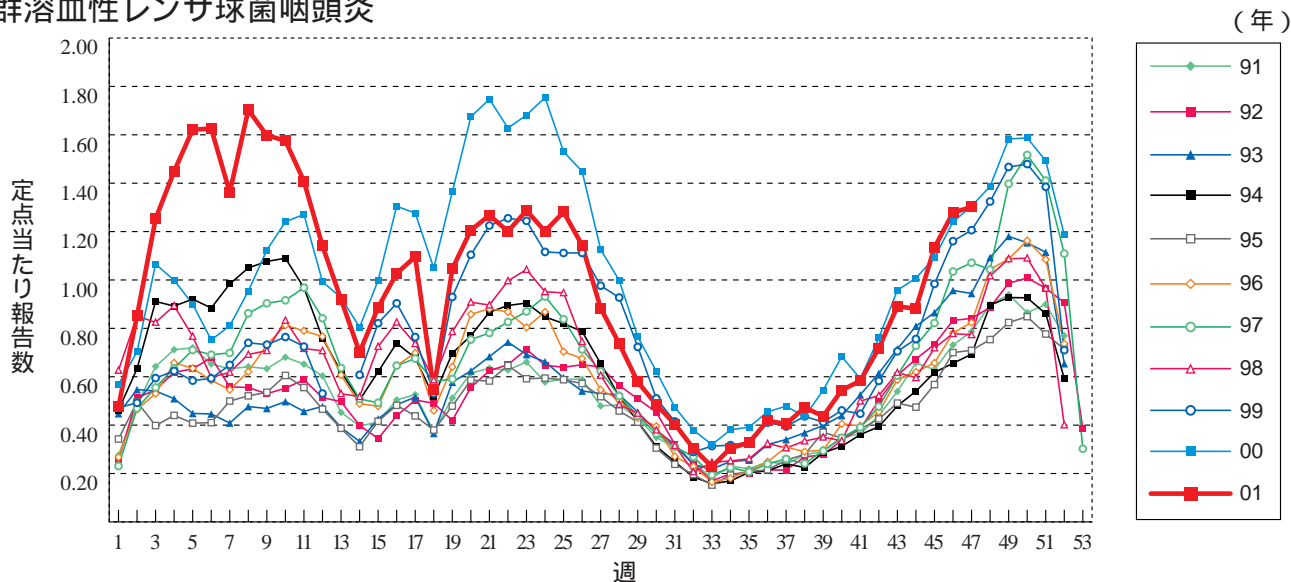
インフルエンザ



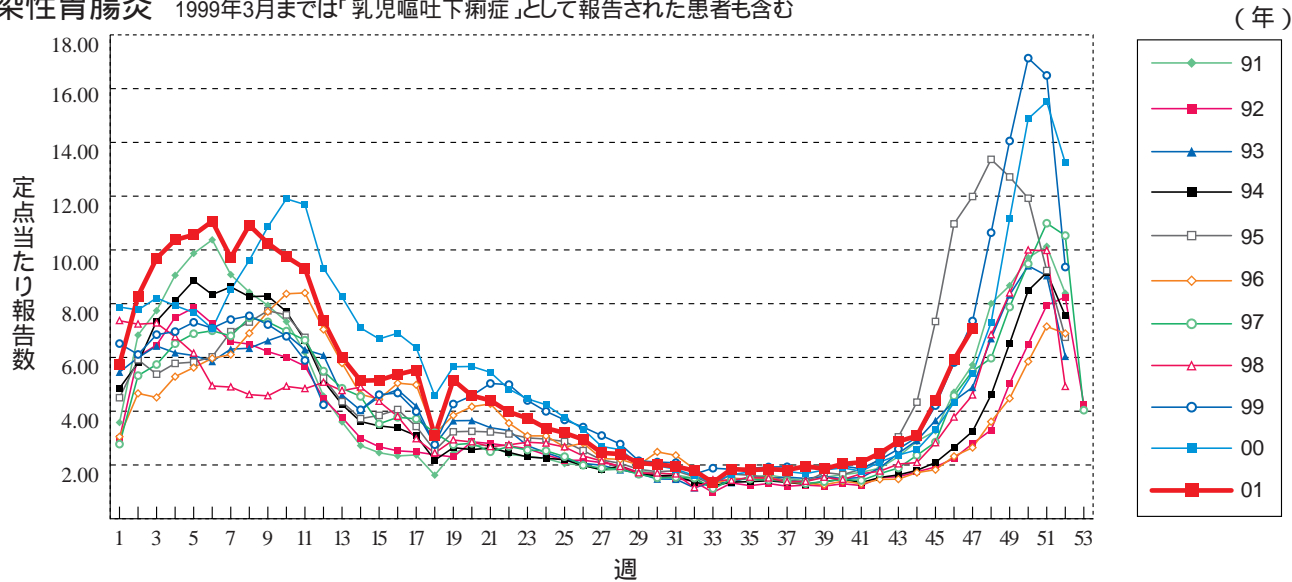
咽頭結膜熱



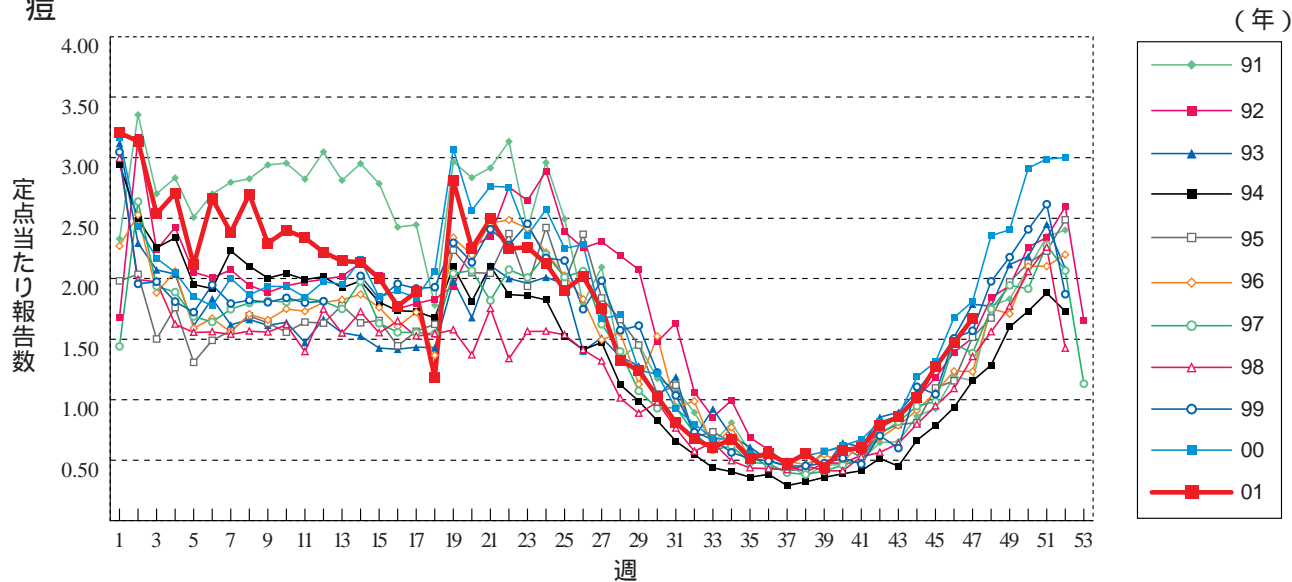
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



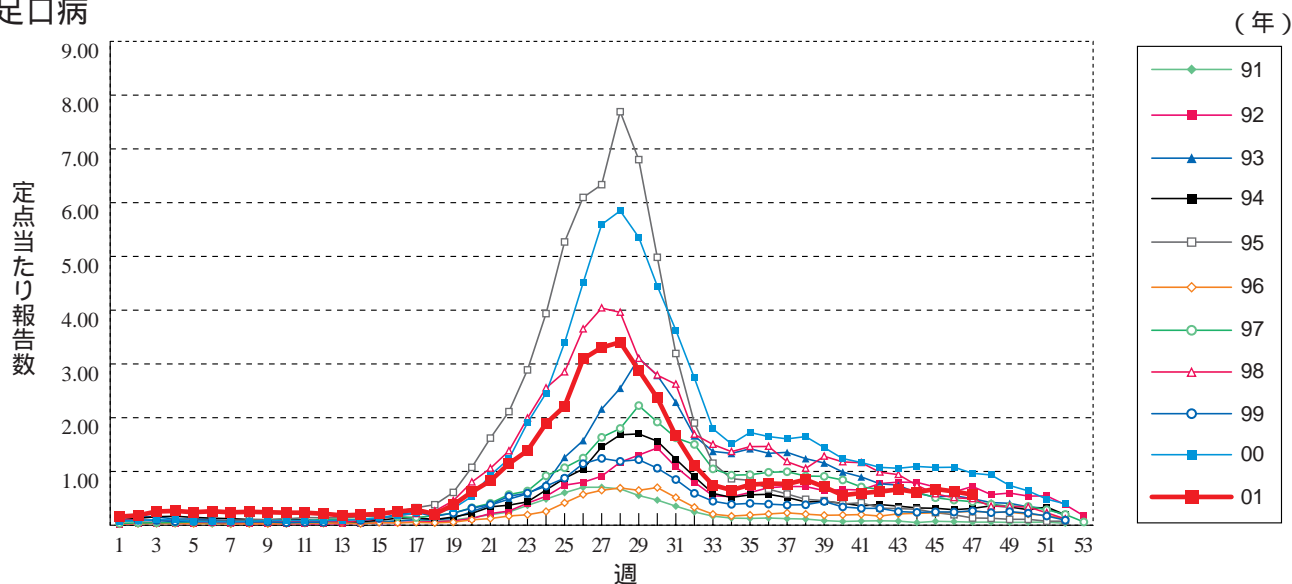
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



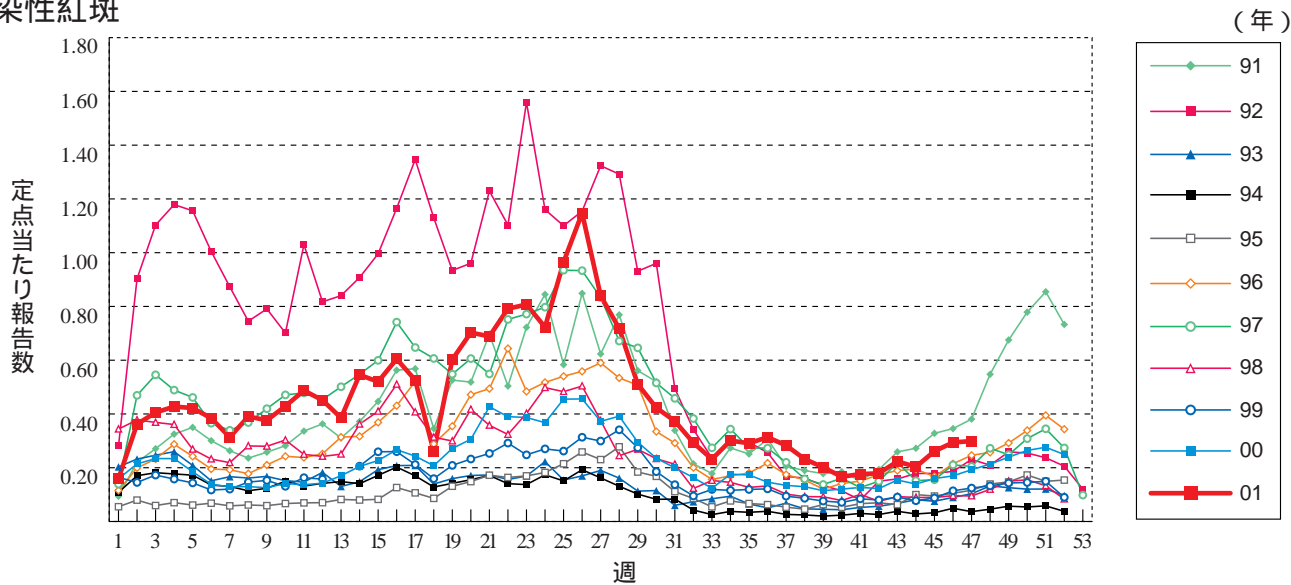
水痘



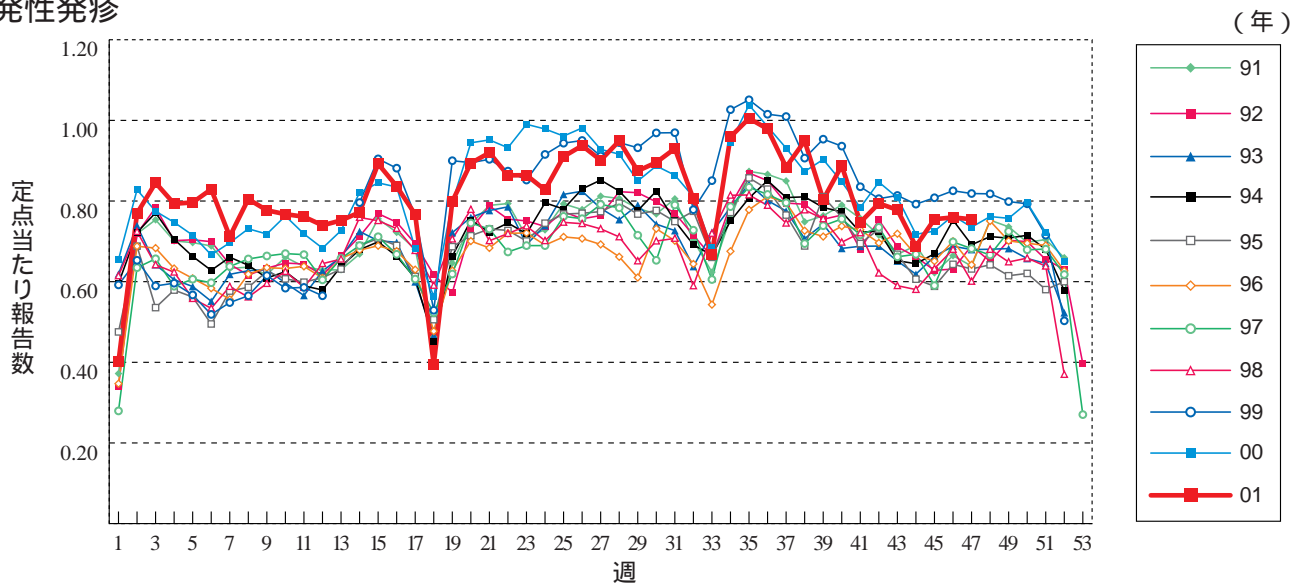
手足口病



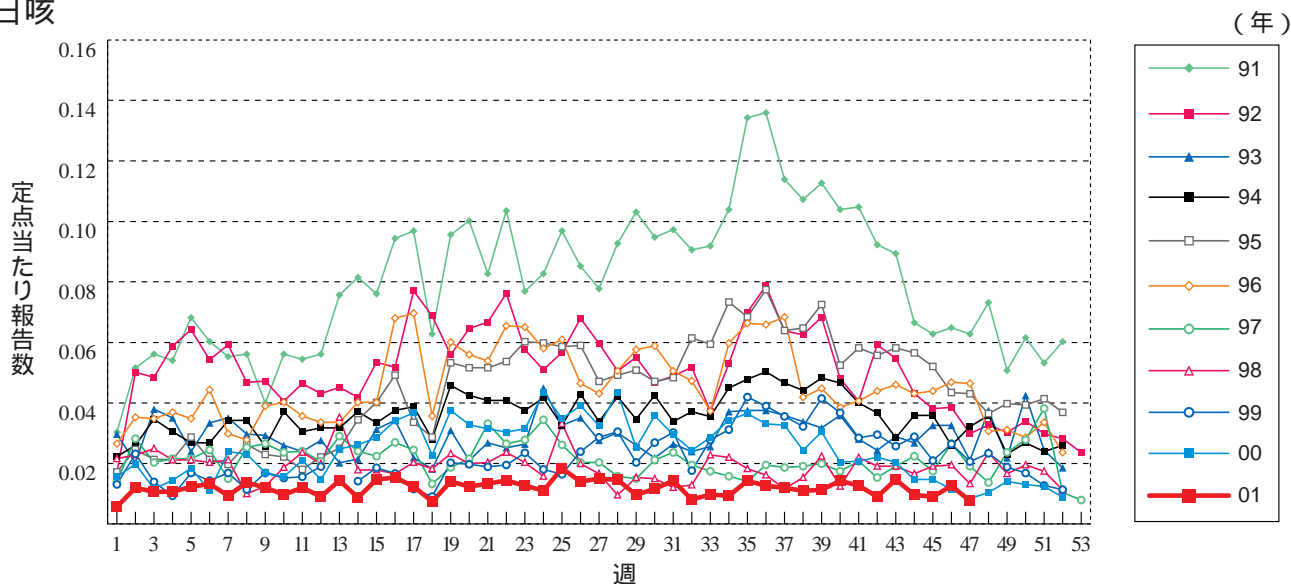
伝染性紅斑



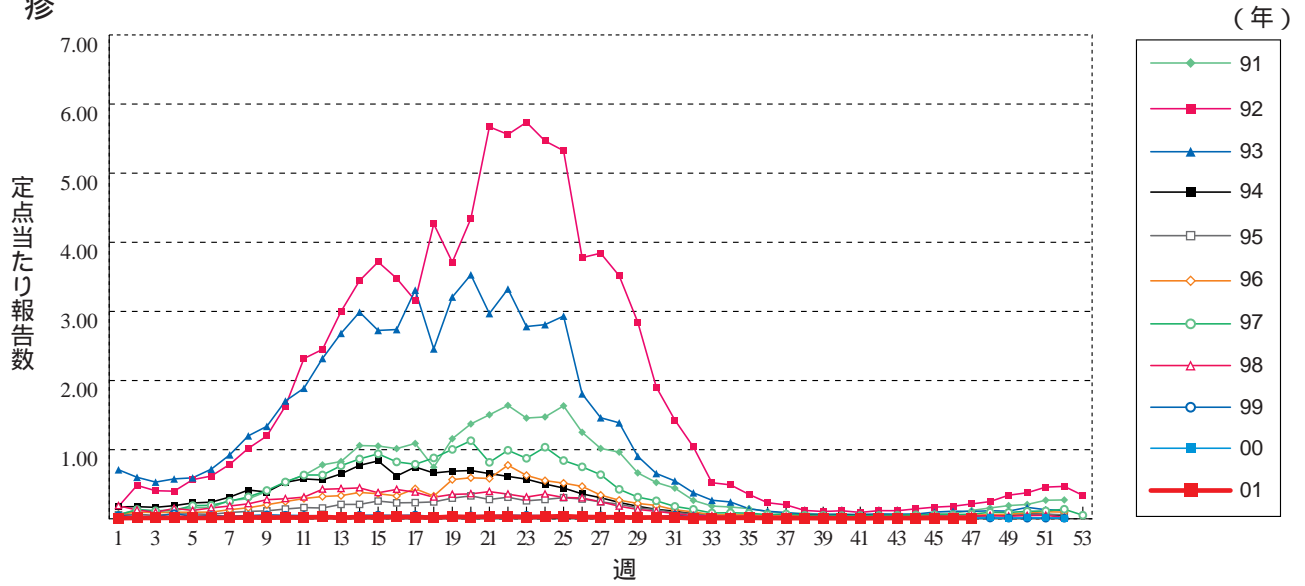
突発性発疹



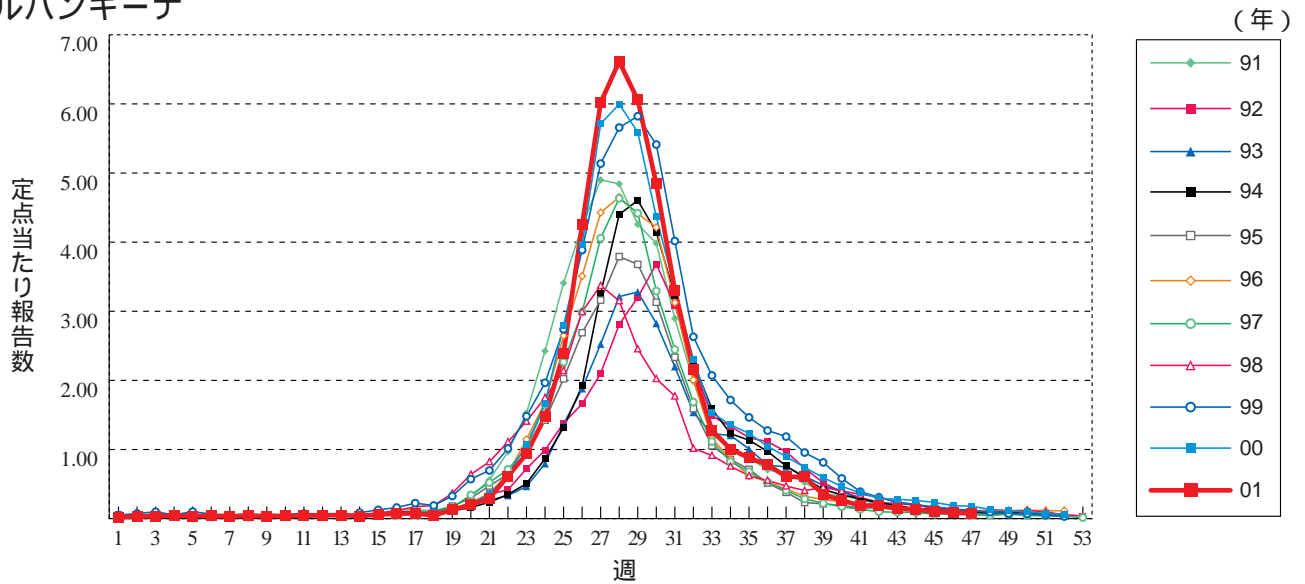
百日咳



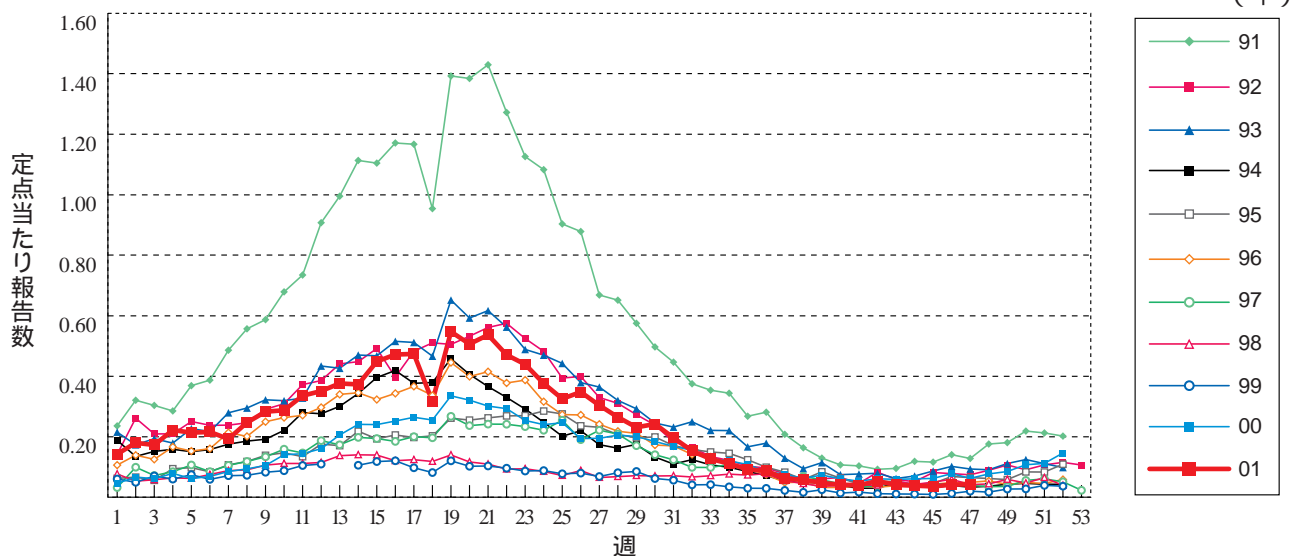
風 疹



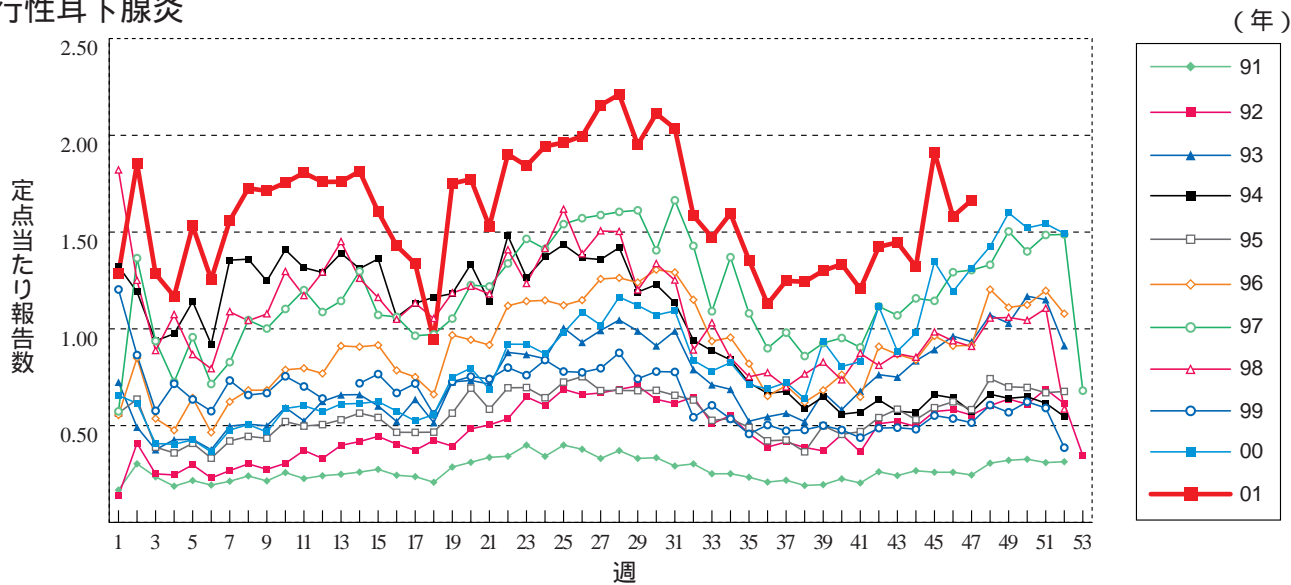
ヘルパンギーナ



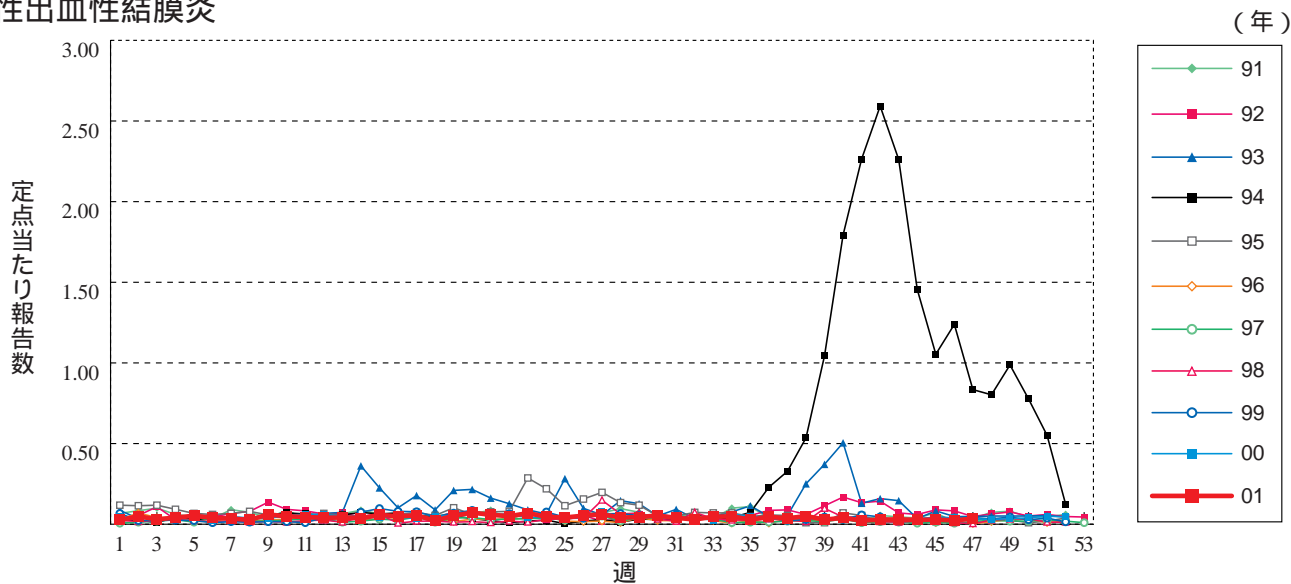
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



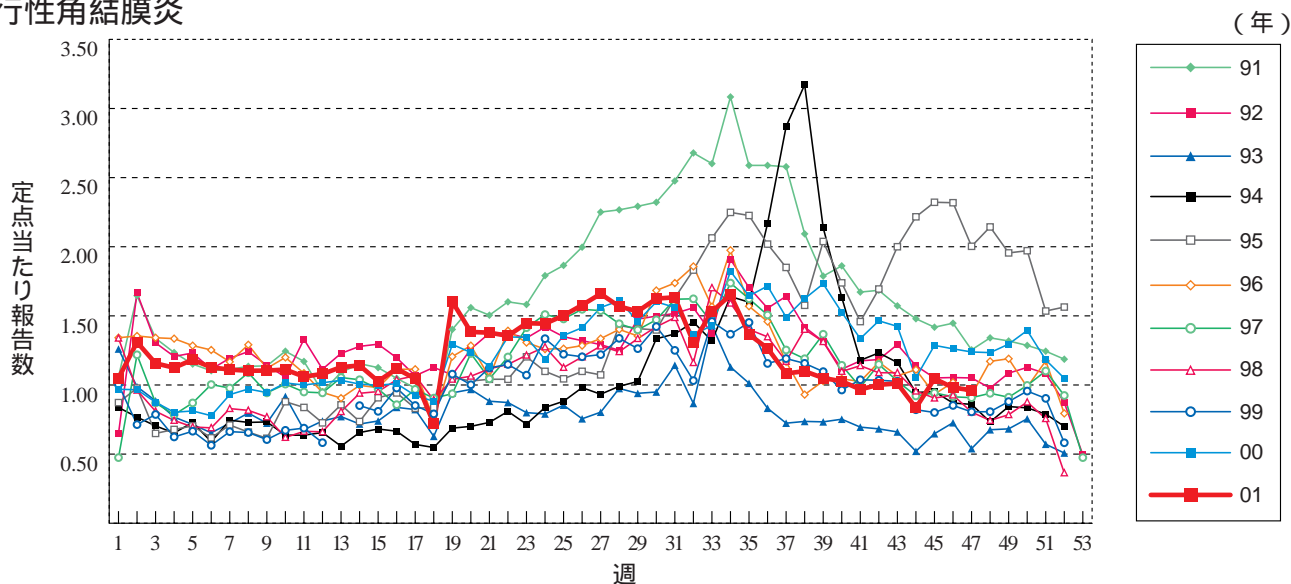
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

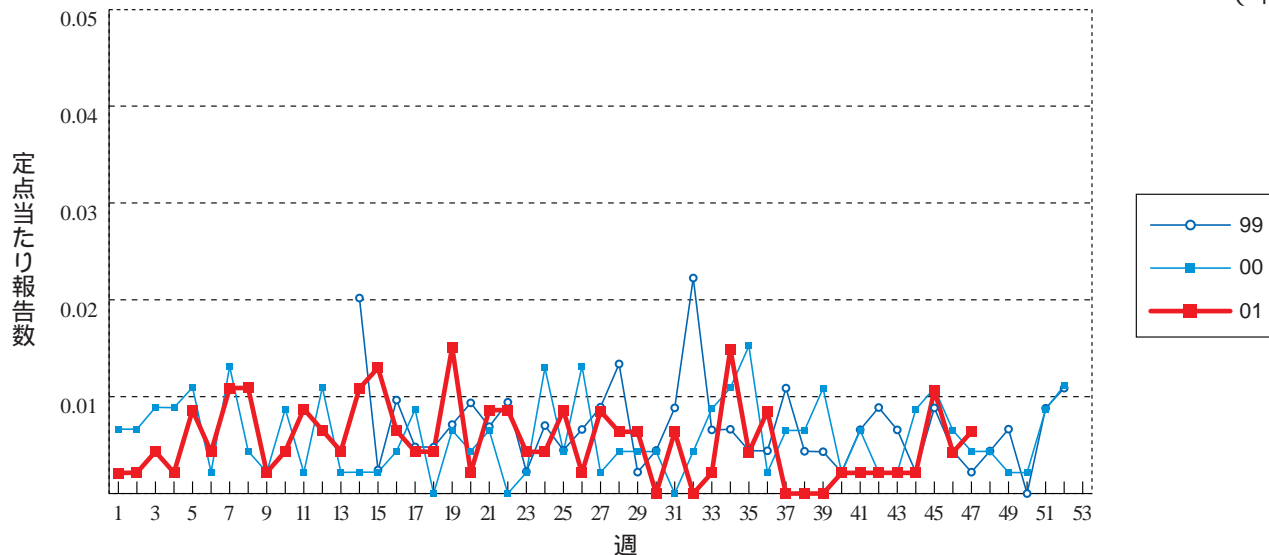


流行性角結膜炎



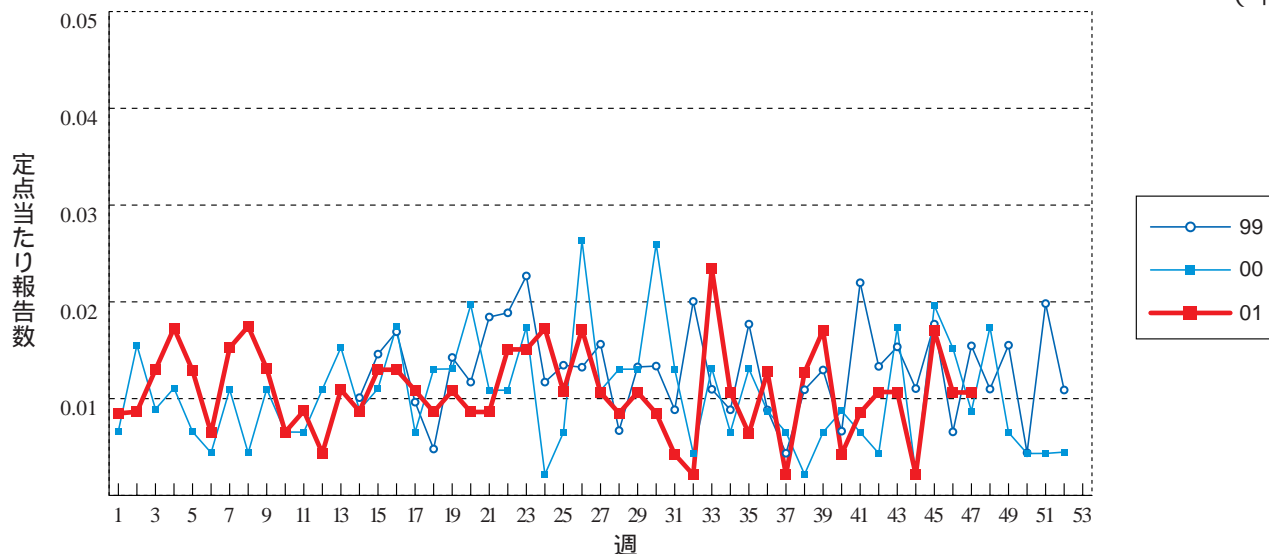
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



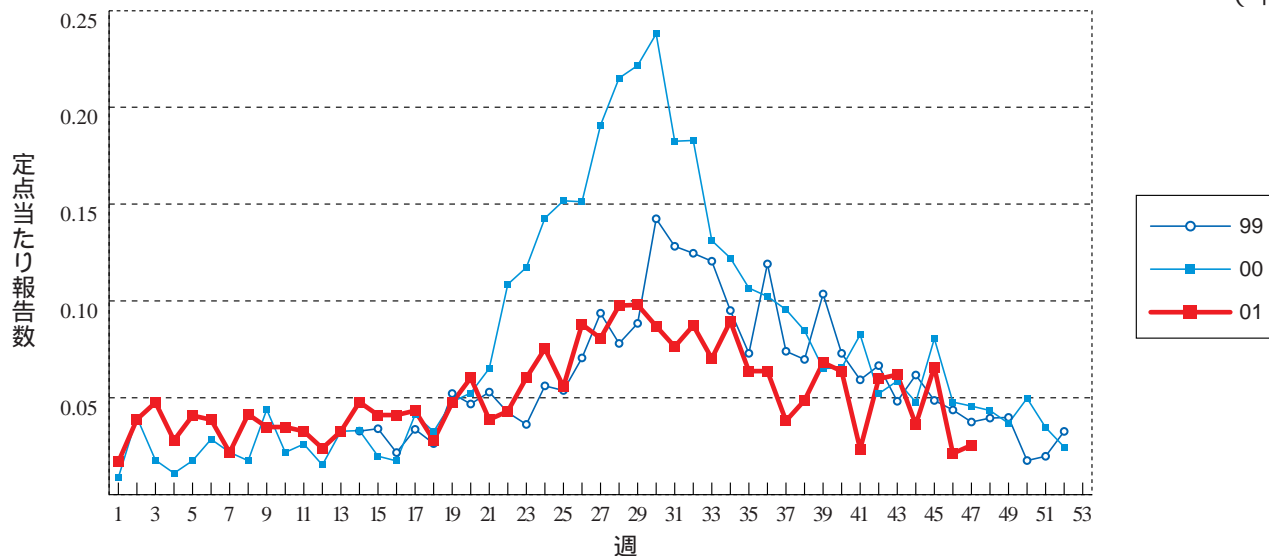
細菌性髄膜炎

(年)



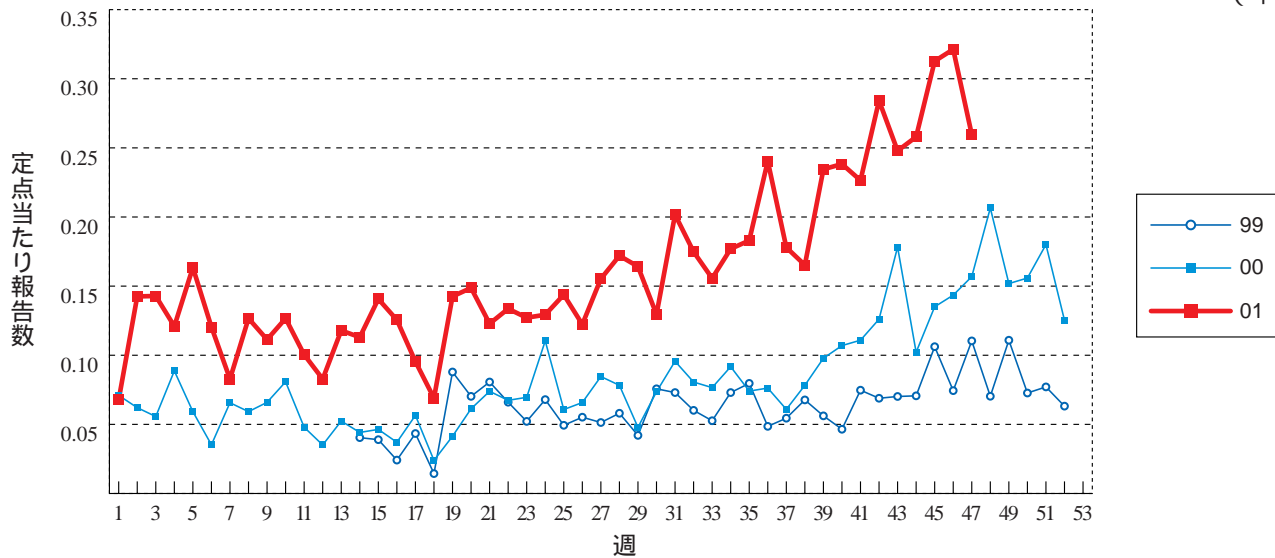
無菌性髄膜炎

(年)



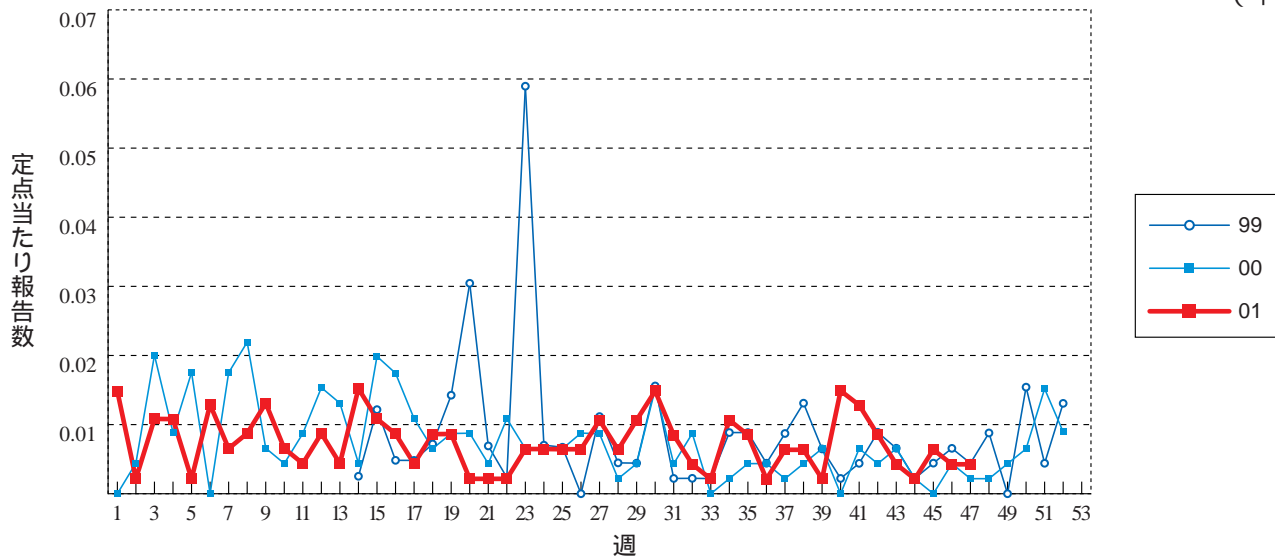
マイコプラズマ肺炎

(年)



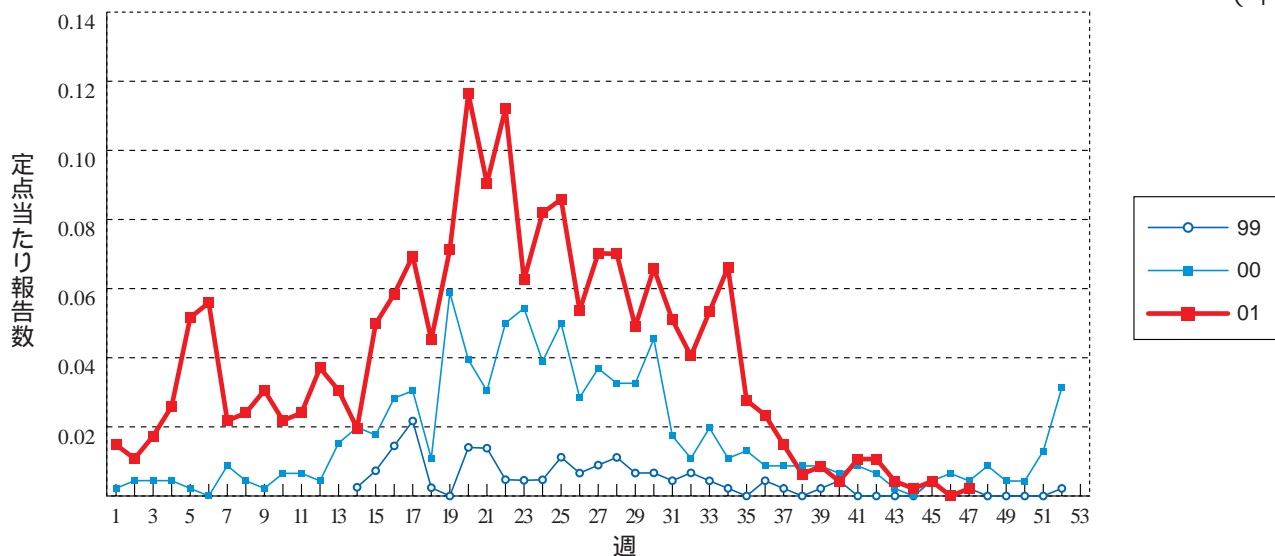
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





47週のデータ

注)表中の報告数は11月29日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年47週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	46	6	570	-	60	-	19
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	24	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	4	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	4	118	-	17	-	14
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	39	-	3	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	10	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	34	-	5	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	48	-	7	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	28	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	7	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年47週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	13	4167	5	373	-	11	-	-	-	29	-	-	2	825
北海道	-	-	-	-	-	154	-	6	-	9	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	45	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	78	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	1	47	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
秋田県	-	-	-	-	-	61	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	-	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福島県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
栃木県	-	-	-	-	1	25	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	86	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
埼玉県	-	-	-	-	-	213	-	15	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
千葉県	-	-	-	-	-	362	1	20	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
東京都	-	-	-	-	3	306	-	100	-	-	-	-	-	7	-	-	-	133
神奈川県	-	-	-	-	-	264	1	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
新潟県	-	-	-	-	2	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	63	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	60	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
長野県	-	-	-	-	-	59	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
岐阜県	-	-	-	-	-	22	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
静岡県	-	-	-	-	-	55	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	169	-	15	-	-	-	-	-	5	-	-	-	18
三重県	-	-	-	-	-	80	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	43	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	93	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	-	-	340	-	55	-	1	-	-	-	4	-	-	-	88
兵庫県	-	-	-	-	2	264	1	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	78
奈良県	-	-	-	-	-	57	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
和歌山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	94	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	73	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
広島県	-	-	-	-	-	83	1	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
山口県	-	-	-	-	-	47	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	1	51	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
高知県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	-	139	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49
佐賀県	-	-	-	-	1	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	1	80	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	-	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
宮崎県	-	-	-	-	-	37	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	-	47	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
沖縄県	-	-	-	-	-	28	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年47週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	27	-	-	1	8	4	117	-	41	4	824	-	1	-	123	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	1	5	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	23	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	1	30	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	4	-	57	-	-	-	2	-	-
東京都	-	7	-	-	-	5	-	8	-	5	1	328	-	-	-	54	-	-
神奈川県	-	1	-	-	1	3	1	6	-	1	-	74	-	-	-	12	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	18	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	3	-	1	-	16	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	6	-	3	-	38	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	14	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	77	-	-	-	15	-	-
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	12	-	3	-	18	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	2	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年47週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	7	-	1	-	-	13	317	-	45	2	38	-	5	-	-	2	504
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	2	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	7
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	12
東京都	-	1	-	-	-	-	-	5	-	19	-	-	-	-	-	-	2	88
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	12
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	103
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	21
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	2	-	1	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	8	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	12	-	1	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	24
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	8	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
大分県	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	1	-	1	-	-	2	14	-	-	1	4	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	3	28	-	-	-	8	-	-	-	-	-	4
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年47週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	71	1	39	-	-	-	-	-	-	-	-	2	97	-	14	1	74
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	3
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	3
東京都	-	3	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	1	40	-	3	-	14
神奈川県	-	4	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	2
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
富山県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	1
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2
島根県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
沖縄県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年47週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	319	0.07	188	0.06	3930	1.30	21346	7.07	5046	1.67	1715	0.57	903	0.30	2279	0.75	23	0.01
北海道	5	0.02	31	0.21	394	2.72	520	3.59	333	2.30	111	0.77	47	0.32	73	0.50	1	0.01
青森県	3	0.05	-	-	42	1.00	220	5.24	85	2.02	11	0.26	40	0.95	24	0.57	1	0.02
岩手県	1	0.02	3	0.08	22	0.59	145	3.92	113	3.05	31	0.84	8	0.22	20	0.54	-	-
宮城県	2	0.02	2	0.03	94	1.59	521	8.83	114	1.93	54	0.92	23	0.39	54	0.92	-	-
秋田県	1	0.02	1	0.03	71	2.03	189	5.40	49	1.40	8	0.23	55	1.57	25	0.71	-	-
山形県	-	-	1	0.03	204	6.80	143	4.77	70	2.33	25	0.83	15	0.50	29	0.97	-	-
福島県	-	-	-	-	70	1.46	243	5.06	106	2.21	53	1.10	14	0.29	60	1.25	-	-
茨城県	8	0.07	1	0.01	63	0.86	236	3.23	61	0.84	18	0.25	15	0.21	27	0.37	-	-
栃木県	3	0.04	6	0.13	77	1.67	249	5.41	51	1.11	2	0.04	26	0.57	28	0.61	1	0.02
群馬県	16	0.16	8	0.13	104	1.68	404	6.52	112	1.81	8	0.13	4	0.06	51	0.82	1	0.02
埼玉県	55	0.22	20	0.13	257	1.62	1348	8.48	258	1.62	26	0.16	49	0.31	124	0.78	2	0.01
千葉県	8	0.04	3	0.02	169	1.33	710	5.59	277	2.18	51	0.40	43	0.34	96	0.76	2	0.02
東京都	8	0.05	15	0.11	80	0.56	717	5.05	154	1.08	30	0.21	22	0.15	53	0.37	2	0.01
神奈川県	19	0.06	8	0.04	213	1.03	1487	7.22	215	1.04	177	0.86	52	0.25	178	0.86	-	-
新潟県	7	0.07	5	0.08	111	1.88	472	8.00	183	3.10	119	2.02	3	0.05	47	0.80	2	0.03
富山県	1	0.02	2	0.07	87	3.00	190	6.55	60	2.07	46	1.59	11	0.38	26	0.90	-	-
石川県	-	-	-	-	12	0.41	277	9.55	79	2.72	45	1.55	34	1.17	13	0.45	1	0.03
福井県	-	-	-	-	18	0.82	178	8.09	75	3.41	18	0.82	9	0.41	19	0.86	-	-
山梨県	10	0.24	-	-	14	0.56	70	2.80	49	1.96	-	-	8	0.32	12	0.48	-	-
長野県	1	0.01	4	0.07	107	1.98	531	9.83	131	2.43	51	0.94	23	0.43	30	0.56	-	-
岐阜県	4	0.05	-	-	65	1.38	195	4.15	65	1.38	15	0.32	13	0.28	34	0.72	2	0.04
静岡県	2	0.01	6	0.07	111	1.29	674	7.84	132	1.53	85	0.99	15	0.17	92	1.07	-	-
愛知県	9	0.05	10	0.05	225	1.24	1011	5.55	212	1.16	148	0.81	45	0.25	146	0.80	1	0.01
三重県	1	0.01	2	0.04	39	0.87	504	11.20	83	1.84	25	0.56	41	0.91	55	1.22	1	0.02
滋賀県	-	-	1	0.03	13	0.42	124	4.00	39	1.26	23	0.74	9	0.29	13	0.42	-	-
京都府	15	0.12	-	-	59	0.78	432	5.68	92	1.21	95	1.25	40	0.53	36	0.47	-	-
大阪府	16	0.05	11	0.06	139	0.72	1697	8.84	216	1.13	37	0.19	28	0.15	109	0.57	1	0.01
兵庫県	5	0.03	8	0.06	86	0.67	1360	10.63	232	1.81	29	0.23	32	0.25	127	0.99	1	0.01
奈良県	13	0.24	-	-	26	0.74	350	10.00	65	1.86	17	0.49	8	0.23	20	0.57	-	-
和歌山県	2	0.04	-	-	35	1.13	125	4.03	74	2.39	7	0.23	2	0.06	25	0.81	-	-
鳥取県	1	0.03	1	0.05	46	2.42	164	8.63	42	2.21	20	1.05	4	0.21	20	1.05	-	-
島根県	-	-	-	-	15	0.65	80	3.48	40	1.74	13	0.57	-	-	15	0.65	1	0.04
岡山県	-	-	1	0.02	17	0.31	224	4.15	67	1.24	102	1.89	8	0.15	24	0.44	-	-
広島県	2	0.02	14	0.19	68	0.91	390	5.20	98	1.31	64	0.85	12	0.16	56	0.75	2	0.03
山口県	-	-	2	0.04	128	2.61	627	12.80	87	1.78	16	0.33	26	0.53	57	1.16	-	-
徳島県	-	-	1	0.04	19	0.83	102	4.43	36	1.57	26	1.13	11	0.48	20	0.87	-	-
香川県	3	0.06	1	0.03	10	0.31	134	4.19	59	1.84	58	1.81	8	0.25	24	0.75	-	-
愛媛県	1	0.02	-	-	62	1.59	428	10.97	56	1.44	7	0.18	23	0.59	44	1.13	-	-
高知県	1	0.02	-	-	35	1.13	113	3.65	41	1.32	7	0.23	7	0.23	15	0.48	-	-
福岡県	17	0.09	7	0.07	235	2.24	1437	13.69	217	2.07	9	0.09	20	0.19	115	1.10	-	-
佐賀県	1	0.03	-	-	25	1.09	172	7.48	71	3.09	1	0.04	4	0.17	37	1.61	-	-
長崎県	-	-	-	-	38	0.79	148	3.08	79	1.65	7	0.15	7	0.15	30	0.63	1	0.02
熊本県	5	0.06	3	0.06	80	1.63	892	18.20	87	1.78	8	0.16	16	0.33	40	0.82	-	-
大分県	6	0.10	-	-	30	0.83	379	10.53	111	3.08	3	0.08	10	0.28	38	1.06	-	-
宮崎県	17	0.28	4	0.11	85	2.30	504	13.62	66	1.78	1	0.03	6	0.16	52	1.41	-	-
鹿児島県	40	0.41	6	0.10	30	0.50	189	3.15	85	1.42	7	0.12	7	0.12	34	0.57	-	-
沖縄県	10	0.17	-	-	-	-	41	1.21	19	0.56	1	0.03	-	-	12	0.35	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年47週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	23	0.01	234	0.08	128	0.04	5026	1.66	22	0.03	611	0.96	3	0.01	5	0.01	12	0.03
北海道	2	0.01	17	0.12	32	0.22	167	1.15	-	-	35	1.21	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	9	0.21	62	1.48	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	32	0.86	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	8	0.14	-	-	87	1.47	1	0.09	3	0.27	-	-	-	-	1	0.08
秋田県	-	-	6	0.17	1	0.03	59	1.69	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	2	0.07	-	-	93	3.10	1	0.13	8	1.00	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	2	0.04	1	0.02	91	1.90	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	1	0.01	1	0.01	171	2.34	-	-	44	2.75	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	85	1.85	3	0.25	40	3.33	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.02	4	0.06	-	-	62	1.00	-	-	45	3.21	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	11	0.07	1	0.01	181	1.14	1	0.03	24	0.67	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	10	0.08	9	0.07	141	1.11	2	0.06	25	0.76	-	-	2	0.15	-	-
東京都	2	0.01	15	0.11	3	0.02	108	0.76	-	-	19	1.36	-	-	1	0.04	-	-
神奈川県	3	0.01	12	0.06	1	0.00	189	0.92	-	-	34	0.81	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.03	3	0.05	-	-	166	2.81	-	-	6	0.67	-	-	-	-	-	-
富山県	1	0.03	2	0.07	2	0.07	150	5.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	0.03	-	-	263	9.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	1	0.05	-	-	31	1.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	0.04	-	-	60	2.40	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	1	0.02	-	-	308	5.70	3	0.30	23	2.30	1	0.09	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	12	0.26	109	2.32	1	0.09	9	0.82	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	-	-	7	0.08	124	1.44	-	-	17	0.85	-	-	-	-	1	0.13
愛知県	1	0.01	9	0.05	19	0.10	233	1.28	-	-	19	0.54	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.02	-	-	83	1.84	-	-	6	0.50	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	-	-	-	-	-	-	24	0.77	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	3	0.04	-	-	85	1.12	-	-	7	0.39	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	18	0.09	8	0.04	179	0.93	-	-	21	0.40	1	0.08	-	-	-	-
兵庫県	-	-	3	0.02	-	-	147	1.15	1	0.03	14	0.40	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.03	2	0.06	4	0.11	78	2.23	1	0.11	6	0.67	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.03	67	2.16	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	1	0.05	11	0.58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	6	0.26	-	-	3	1.00	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	-	-	-	-	1	0.02	90	1.67	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.01	6	0.08	-	-	109	1.45	1	0.05	19	0.95	1	0.05	-	-	2	0.10
山口県	-	-	21	0.43	-	-	40	0.82	1	0.11	8	0.89	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	52	2.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	0.03	1	0.03	56	1.75	-	-	7	2.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	3	0.08	-	-	135	3.46	-	-	14	2.00	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	3	0.10	-	-	7	0.23	-	-	1	0.33	-	-	1	0.13	1	0.13
福岡県	3	0.03	19	0.18	7	0.07	249	2.37	-	-	27	1.13	-	-	1	0.07	1	0.07
佐賀県	-	-	13	0.57	-	-	52	2.26	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	1	0.02	3	0.06	20	0.42	5	0.50	13	1.30	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	12	0.24	1	0.02	98	2.00	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	10	0.28	-	-	66	1.83	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	4	0.11	-	-	96	2.59	-	-	9	2.25	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	5	0.08	3	0.05	166	2.77	1	0.17	19	3.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	2	0.06	-	-	138	4.06	-	-	4	0.40	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年47週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	122	0.26	2	0.00	1	0.00
北海道	2	0.09	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	14	1.17	-	-	-	-
秋田県	3	0.43	-	-	-	-
山形県	5	0.50	-	-	-	-
福島県	3	0.43	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	2	0.29	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	5	0.38	-	-	-	-
東京都	3	0.12	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	12	0.92	-	-	-	-
富山県	3	0.60	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	10	1.43	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	10	0.83	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	8	1.60	-	-	-	-
島根県	3	0.38	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	7	0.33	-	-	-	-
山口県	1	0.11	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	4	0.50	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	3	0.50	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	4	0.27	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	2	0.29	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第47号 平成13年12月7日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。